令和7年度　飯塚市事務事業評価シート

令和　8　年　6　月　15　日　作成

事務事業名	飯塚観光協会補助事業	事務事業No.	452 - 6

1．基本情報

担当部	担当課	担当係	作成者職名	作成者氏名	所属長職名	所属長氏名
経済部	商工観光課	観光係	主任	武本　遼	課長	原野　正俊

施策体系				
総合計画	政　策	4	地域経済	
	施　策	5	観光の振興	
	基本事業	2	観光まちづくりの実践	
その他の計画	個別計画		第2次飯塚市観光振興費本計画	
根拠法令・条例・要綱等	飯塚市補助金等交付規則、飯塚観光協会補助金交付要綱			

事業開始年度	平成12年度	事業終了年度	維持	事務事業類型	ソフト事業
実施手法	一部委託	補助金等の支給	補助金等あり	実施計画期間	－

2．事務事業の概要及び目的（決算成果説明書と連動）

概要		飯塚市観光事業の振興・活性化を図り、新たな観光資源の発掘や施設整備・運営、物産の開発やその普及を図ることにより、飯塚市の文化、厚生及び経済の発展、向上に寄与するよう、補助金を交付する。
対象	働きかける相手・もの	飯塚観光協会
手段	方法・働きかけ（活動指標）	協会が適切かつ、効果的にイベントを実施できるよう指導を行うことと併せ、補助金を交付する。
意図	対象をどのようにしたいか（成果指標）	誘客業務の中核を担う団体として、機能の充実・効率化を図る。

3．活動指標（決算成果説明書と連動）

指標名	単位	指標の説明（算式等）	前年度実績	本年度実績	次年度見込
事業件数	件	市商工観光課、観光協会等観光団体の主催・共催・後援イベントの件数	8	9	9
観光協会助成額	千円	観光協会補助金額	29,215	31,574	27,026
バスツアー実施回数	回	観光協会主催のバスツアー開催件数	17	20	15

4．成果指標（決算成果説明書と連動）

					前年度実績	本年度実績	次年度見込
指標	3施設の観光入込客数	単位	達成目標値				
		人	前年度維持	目標値	60,000	50,000	60,000
説明	3施設（旧伊藤邸、リトリート、サンビレッジ茜）の観光入込客数	方向性	達成目標年度	実　績	55,500	59,286	
		減少	毎年度				
指標	団体バス誘致件数	単位	達成目標値		前年度実績	本年度実績	次年度見込
		台	前年度維持	目標値	253	283	300
説明	旧伊藤邸、大浦荘に入った団体バスの件数	方向性	達成目標年度	実　績	283	312	
		維持	毎年度				
指標	観光協会実施のバスツアーの参加人数	単位	達成目標値		前年度実績	本年度実績	次年度見込
		人	前年度維持	目標値	300	400	500
説明	観光協会実施のバスツアーの参加人数	方向性	達成目標年度	実　績	341	590	
		維持	毎年度				

5．事務事業実施にかかるコスト（決算成果説明書と連動）

経費区分	一般会計	政策的経費・経常経費	特別会計	－

予算科目・事業	会計	1	一般会計	款	7	商工費	項	1	商工費	目	4	観光費
	大	2	観光振興事業費	中	3	観光協会補助事業費					他	1 事業

	(R2以降)	前年度実績（千円）			本年度実績（千円）			増減理由（10%以上の場合）	次年度予算（千円）		
投入人員（当該事務事業に対して１年間に投入した人員）	正職員	0.37	人	3,014	0.40	人	3,397		0.30	人	2,548
	任期付職員(保育士)	0.00	人	0	0.00	人	0		0.00	人	0
	任期付職員(子ども家庭支援員)	0.00	人	0	0.00	人	0		0.00	人	0
	任期付職員(CW・水質)	0.00	人	0	0.00	人	0		0.00	人	0
	再任用フル	0.00	人	0	0.00	人	0		0.00	人	0
	再任用短	0.00	人	0	0.00	人	0		0.00	人	0
	会計年度 1級フル	0.00	人	0	0.00	人	0		0.00	人	0
	会計年度 1級パート	0.00	人	0	0.00	人	0		0.00	人	0
	会計年度 2級パート	0.00	人	0	0.00	人	0		0.00	人	0
人件費計（A）				3,014			3,397	－			2,548
事業費	直接事業費（B）			28,995			31,573				27,026
	総事業費（A＋B）			32,009			34,970				29,574
直接事業費のうちの主な歳出内訳	負担金・補助金・交付金			28,995			31,573				27,026
	－			0			0				0
財源内訳	使用料・手数料（受益者負担分）			0			0				0
	国・県支出金			1,420			3,310				3,333
	市債			0			0				0
	一般財源			30,589			31,660				26,241
	その他（　　）										

6．事務事業の事後評価★

評価視点	評価	評価の理由、または認識している課題を記載
妥当性評価	やや高い	観光協会が中心となり、市の観光振興を推進していくうえで、補助金の交付は妥当であるものの、補助金頼りの運営となっている。 毎年同一の業務の繰り返しとなっている。 新たな観光事業の発掘や、自主財源を生み出す事業創出の見込みも薄い。 協会内の業務分担も課題あり。
効率性評価	低い	市全体のイベント等、観光協会が中心となり関係団体とも協力体制を構築しながら効率よく推進している事業もある。 一方で補助金を交付しているにも関わらず市が主体となって動かざるを得なかった事業もある。
有効性評価	やや低い	補助金による市全体の観光イベント等の推進の面では事務局もあり、必要であるものの、例年通りの活動が主となっており、新たな観光事業の発掘や収益事業の創出がない。 協会内の組織・運営体制も問題があり、有効性は低い。

7．前年度評価時の計画と実績

前年度評価★		前年度記載した改善策（課題解決や改革・改善に向けて、予算を含めた具体的な方策）★	
評価区分	成果の方向性	次年度以降にコスト（人・予算等）を必要とせず、ただちに実施できる改善策	核となる収益事業の実施
一次評価	縮小		
	コストの方向性	次年度以降にコスト（人・予算等）を必要とし、中長期的に実施する改善策	-
	縮小		

前年度改善策に対する実績　★　　※上記の改善策に対して今年度に実施できたこと、などを記入

新規収益事業の計画、実施なし。

8．今年度評価における成果と課題（決算成果説明書と連動）★

【成果】　バスツアーの実施。

【課題】　補助金ありきの運営。
例年通りの業務の繰り返し、新規事業や自主財源を創出する事業の実施や計画もなし。

9.今後の事業の方向性と改善策

成果の方向性	【理由】
縮小	新規事業の実施等、現状改善の動きもなく成果は期待できない。
コスト投入の方向性	【理由】
縮小	人件費の縮小。

次年度以降の改善策（課題解決や改革・改善に向けて、予算を含めた具体的な方策）★	
コスト（人・予算等）を必要とせず、ただちに実施できる改善策	新規事業、収益事業の実施
コスト（人・予算等）を必要とし、中長期的に実施する改善策	-

2次評価（最終評価）	**成果の方向性** 縮小	DMOの設立に伴い、観光協会の業務の棚卸しを予定されており、観光協会が行う事業については公益事業等に注力する方針であることから本補助金交付事業での成果としては縮小とする。ただし、観光政策、観光事業全体としては、DMO設立により地域観光のマネジメントやマーケティング調査の実施、地域資源の発掘や商品開発を行うことで成果を拡充していくべきと考える。
	コスト投入の方向性 縮小	補助金対象事業の見直しに伴い、将来的な方向性について縮小とする。